

適切なりと考へられる事業に主力を注いでゆくことか  
最も効果的な仕事の遠方であると思ふ。斯様な意味で  
、近年各團に於て顯著に勃興して来た所謂産業福利運  
動の擴充の如き、今日の時勢に於て極めて必要且重要  
なる事業であり、而して産業協力、勞資協調と言ふ協調  
會本來の建前からして最も有意義なるものであること考  
へらる。蓋し、勞資協調と言ひ、産業協力と言ひ、  
眞に結構なる趣旨であるか、之を徒らに抽象的説教的  
に唱へて見た所で餘り効果はない。寧ろ今日では此の  
趣旨精神が現實の勞資の間には實に着々具体化され實  
現化され申かねばならぬ秋であると思はれる。

顧みるに、本會創立當時に於ける我國の社會情勢は  
世界大戰の結果産業經濟が急激なる膨脹發展を遂げ

之に伴ひて勞働者階級の組織勢力も俄かに増大し、殊  
に戰後各國に流行した矯激なる社會思想の影響を蒙つ  
て、勞働運動、社會運動は一般に階級闘争的色彩を帯  
ひ勞資間の紛争争議が不断頻發し、斯の意疎地於ける  
社會不安が一時期極点に達した。而して斯かる勞資間の紛  
議紛争と居仲調停し、産業の發展を正しき方向に指導  
する適當の機關を缺いて居た。斯かる時に直面した協  
調會が勞資双方の間に直接介在し、専ら力を争議の調  
停に盡したことは固より當然であつたと言はねばなら  
ぬ。然るに今日に於ては情勢は大に變り、勞働運動、  
社會運動方面に於ては往時の矯激なる傾向が漸次影を  
潜め、寧ろ著しく協調的建設的となり、勞働組合の間  
に先進人で資本家側との産業協力を提唱するものも出